

「新・文明の旅」プログラムメンバー

訪問国のスイーツ作りに挑戦

ふじみ野・本郷両キャンパスの「新・文明の旅」プログラムの調理室で、訪問3カ国プログラムの受講者有志が、9月のスイーツ作りに挑戦しました。



神妙な顔つきで味見する学生たち



ブルガリア共和国の「バニツァ」



トルコ共和国の「シケルパーレ」



「ミルクチキン」

体力のいる卵の泡立てが必要な「ミルクチキン」班の手伝いもこなしました。最後に全員でスイーツ試食を楽しみました。

履修生の佐藤寛子さん（人間学部児童発達学科3年）によると、「両キャンパスが離れ

ているため、『新・文明の旅』プログラムというひとつの目標に向かって、みんなで力を合わせられるようお願いを通して親しくなりたいと思いました。第1回はみんなで池袋へ行き、トルコ料理を堪能。今回は2回目、あらかじめ何人かでスイーツを試作して、とてもおいしかったので懇親会に結びつけました」と準備万端。3グループに分か

れ、ブルガリア共和国の「バニツァ」、トルコ共和国の「シケルパーレ」、ルーマニアの「ミルクチキン」を作り始めると、調理室には甘い香りが漂いました。途中で、北京語言大学からの交換留学生・尚雨晴さん、韓国から初めて迎える交換留学生・朴庠垠さんと李度始さんも参加。来日後、数か月から1週間にも関わらず、流暢な日本語を駆使

しながら率先して調理に臨みました。本郷キャンパスからは、野口由雄「新・文明の旅」プロジェクト実行委員会委員長／短大教授とリア・ギルナー外国語学部准教授が駆けつけ、担当職員一同と共に学生たちが楽しく交流する様子を見守りました。

黒一点(?)の日暮武蔵さん(経営学部3年)は、「バニツァ」班に所属しながら、